

【山武地域①】令和元年度 飼料用米多収品種現地実証展示ほ 成績の概要

1 展示の概要

| | | | |
|-------|--------|-----|-------|
| 設置場所 | 山武市 | 品種 | アキヒカリ |
| 土性 | 砂質土 | 播種日 | 3月31日 |
| 播種量 | 160g/箱 | 移植日 | 4月25日 |
| 幼穂形成期 | 6月15日 | 出穂期 | 7月10日 |
| 成熟期 | 8月13日 | 収穫日 | 8月20日 |

2 結果の概要(成熟期の調査結果と収量)

| | | | |
|------|---------------------|-------|-----------|
| 稈長 | 72.0cm | 穂長 | 16.9cm |
| 穂数 | 507本/m ² | 倒伏程度 | 2.1 |
| 粗玄米重 | 690kg/10a | 標準単収値 | 559kg/10a |

3 多収に向けた栽培管理のポイント及びその取組実績

(1) ほ場の土づくりの実施

- ・堆肥種類：－
- ・施用量：－
- ・施用時期：－

(2) 多収品種に必要な量の施肥 ※推奨量は、ページ下の参考のとおりです

- ・基肥N量：8.4kg/10a ※肥料銘柄：ナポロングVFD262
- ・追肥実施日：6月14日
- ・追肥N量：2.9kg/10a ※肥料銘柄：サンライトNKV1

(3) 冷害を避けるための適期の移植

- ・移植日（5月中旬を推奨）：4月25日

(4) 適切な栽植密度、植付本数で植え付ける

- ・栽植密度（55株/坪を推奨）：53.4株/坪
- ・植付本数（4～6本/株を推奨）：4.1本/株

4 考察等

幼穂形成期の低温による一穂粒数の減少があったものの、栽培管理のポイントに基づいた管理の実施等により、高い収量を得ることができた。

(参考) 多収品種に必要な施肥量

| | アキヒカリ |
|------|-----------------|
| 基肥N量 | 9kg/10a（砂質土の場合） |
| 穂肥N量 | 3kg/10a |

※穂肥は、幼穂形成期（幼穂が1～2mmの時期）に施用します